InterSafe WebFilter Ver9.0

バージョンアップ ユーザーズガイド

Linux 編

目次

1. はじめに 4

1-1. バージョンアップについて 4
1-2. 各バージョンプログラム入手方法について 4

2. マスタサーバのバージョンアップ詳細 5

2-1. バージョンアップ作業項目について 5
移行環境 5
作業項目一覧 5
2-2. サービスの停止/起動について 6
2-3. 既存設定のバックアップ 6
2-4. マスタサーバの上書きインストール 7
2-5. 修正パッチの適用 9
2-6. 注意事項の確認/設定 9
2-7. URL DB ダウンロード 10

3. マスタ/スレーブ構成でのバージョンアップ詳細 11

3-1. バージョンアップ作業項目について 11
移行環境 11
作業項目一覧 11
3-2. スレーブサーバのサービスの停止/起動について 11
3-3. スレーブサーバの既存設定のバックアップ 12
3-4. スレーブサーバの上書きインストール 12
3-5. 修正パッチの適用 14
3-6. URL DB ダウンロード 14

4. OS 変更を伴うバージョンアップ作業例 15

4-1. バージョンアップ作業項目について 15
移行環境 15
前提条件 15
作業項目一覧 16
4-2. バージョンアップ手順 17
マスタサーバの構築 17
スレーブサーバの構築 19

5. 製品変更を伴うバージョンアップについて 24

Squid のインストール 24
Squid の設定 24

6. 設定の保存/復旧を使ったバージョンアップ例 25

6-1. バージョンアップ作業項目について 25
移行環境 25
前提条件 25

作業項目一覧 26
6-2. バージョンアップ手順 27
既存サーバのバージョンアップ 27
設定ファイルの保存 31
新規サーバの構築 32
設定ファイルの復旧 34
注意事項の確認/設定 35
URL DB ダウンロード 35
7. 障害時のリカバリについて 36
スレーブサーバのリカバリについて 36
8. Ver9.0 での変更内容について 37
8-1. 注意事項 37
8-2. バージョンアップによる機能追加 37
8-3. 設定ファイルの違い 38
9. バージョンアップ時の FAQ 40
10. InterSafe WebFilter サポート窓口について 41

1. はじめに

本マニュアルでは、InterSafe WebFilter(以下、WebFilter と記載)を Ver9.0 へバージョンアップを行う場合の手順について説明をしています。なお、Ver.5.0～Ver.8.5SP2 から Ver9.0 へのバージョンアップも同様の手順で実施可能です。

操作手順の中に、WebFilter のマニュアルを参照する説明がありますので、WebFilter の管理者マニュアルを準備してください。

1-1. バージョンアップについて

Ver9.0 のプログラムでは、Ver5.0 以降から直接設定情報を保持したままバージョンアップを行うことが可能です。

本マニュアルでは、マスタ単体の場合、マスタ/スレーブサーバ構成の場合、Windows → Linux など OS の変更を伴う場合のバージョンアップの手順について説明します。

- Ver8.0 以降では Squid 版は未販売のため、Ver7.0 までの Squid 版をご利用のお客様は Ver9.0 ICAP 版へのバージョンアップとなります。
- マスタサーバとスレーブサーバは同一 OS、同一スペック、同一の InterSafe WebFilter バージョン・製品にて運用することを前提としています。
- 製品の移行(ICAP 版 → Proxy 版、Proxy 版 → ICAP 版)についてはサポート対象外となります。

1-2. 各バージョンプログラム入手方法について

各バージョンのプログラムを入手するには、以下の URL にアクセスしてください。

＜InterSafe WebFilter 試用版申し込みソフトウェアダウンロードサイト＞

https://alsi-iss.jp/download/intersafe/

図 1-1



1) [InterSafe WebFilter 製品ダウンロード]をクリックします。

2) ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されますので、各項目に入力し[OK]をクリックします。

- ログインするためのユーザ名とパスワードが不明な方は、ssg@alsi.co.jp までお問い合わせください。

3) ユーザ専用ダウンロードページが表示されますので、必要なバージョンの WebFilter をダウンロードしてください。

2. マスタサーバのバージョンアップ詳細

ここでは、マスタサーバを Ver8.5 SP1 から Ver9.0 へバージョンアップと修正パッチを適用する手順について説明します。

Ver5.0～Ver8.5 からのバージョンアップでも同様の手順で行なうことができます。

2-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 2-1

	OS	InterSafe WebFilter
移行前	Red Hat Enterprise Linux 6.6 Server(64bit)	Proxy Ver8.5 SP1 Build0876 on Linux
移行後	Red Hat Enterprise Linux 6.6 Server(64bit)	Proxy Ver9.0 Build1101 on Linux

作業項目一覧

表 2-2

WebFilter Ver.	作業項目	作業目安時間	作業完了チェック
8.5 SP1	サービスの停止（2-2.参照）	5 分	
	Ver8.5 SP1 の conf とログディレクトリバックアップ（2-3.参照）	10 分	
	Ver9.0 へバージョンアップ(2-4.参照）	5 分	
9.0	修正パッチの適用 → サービス起動(2-5.参照）	5 分	
	注意事項の確認/設定（2-6.参照）	10 分	
	URL DB ダウンロード（2-7.参照）	5 分	
	バージョンアップ終了	計 40 分	

2-2.サービスの停止/起動について

サービスの起動 / 停止するには、対象とするサービスごとに、ターミナルで次のコマンドを実行します。

- サービス停止 / 起動手順は、ご利用バージョンの WebFilter の管理者マニュアルもご参照ください。
- サービスの起動 / 停止は root ユーザで実行してください。

管理サービス

起動：<インストールディレクトリ>/bin/amsadmin start

停止：<インストールディレクトリ>/bin/amsadmin stop

拡張 Web サービス

起動：<インストールディレクトリ>/bin/amsweb start

停止：<インストールディレクトリ>/bin/amsweb stop

フィルタリングサービス

起動：<インストールディレクトリ>/bin/amsproxy start

停止：<インストールディレクトリ>/bin/amsproxy stop

集計サービス (Ver9.0 以降)※マスタのみ

起動：<インストールディレクトリ>/bin/amscollector start

停止：<インストールディレクトリ>/bin/amscollector stop

上記 4 つのサービスをまとめて起動 / 停止するには以下のコマンドを実行します。

起動：<インストールディレクトリ>/bin/amsmain start

停止：<インストールディレクトリ>/bin/amsmain stop

- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

2-3. 既存設定のバックアップ

既存環境のデータのバックアップを行います。

バックアップが必要なディレクトリについては以下の通りです。

表 2-3

説明	バックアップするディレクトリ/ファイル
設定ファイル	<インストールディレクトリ>/conf ディレクトリごと
各種ログ	<インストールディレクトリ>/logs ディレクトリごと
管理画面を HTTPS プロトコルで使用している場合	<インストールディレクトリ>/tomcat/.keystore ファイル

- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

2-4. マスタサーバの上書きインストール

Ver8.5 SP1 導入済みのサーバに Ver9.0 を上書きインストールすることで、設定情報を引き継ぐことが可能です。

- インストールの手順は、Ver9.0 の WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.0 のイントールプログラムおよび修正パッチを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。
- WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。
- WebFilter のサービスを予め停止しておいてください。サービスの停止手順は、P.6「2-2.サービスの停止/起動について」をご参照ください。

1) Ver.9.0 のインストールファイルを実行します。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

2) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。

3) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。(使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。)

4) 既存バージョンの WebFilter が検出され、上書きインストールを行うメッセージが表示されます。<Enter>キーを押し、インストールを続行します。

```
Updatable product version was detected.

Installation will be executed as update mode.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

5) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently
running, please stop them.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

6) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?

When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up

  ->1- Automatic setting
    2- Manual setting

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

6)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below
User:intersafe
Group:intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

6)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、6)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

7) OS 起動後、WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。OS 起動後、WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
  ->1- Automatic start registers
    2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

8) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。

9) コンバート処理が実行された旨のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
Conversion process was executed.

Check the update.log in the install destination folder.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

10) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver.9.0 Build1101 was installed in the following location.

/usr/local/intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

11) OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。最適化する場合は、「1」を入力し、<Enter>キーを押します。

● Ver7.0 以前よりバージョンアップする場合は、OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.
ip_local_port_range = 1025 65535
tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

12) インストール後、WebFilter のサービスを起動するかどうかを設定します。「1」を入力し、<Enter>キーを押します。

● バージョンアップ後、続けて修正パッチを適用する場合は、「2」を入力し、<Enter>キーを押します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

13) インストールプログラムを終了します。<Enter>キーを押します。

2-5. 修正パッチの適用

修正パッチがリリースされている場合、バージョンアップのタイミングで修正パッチも適用することを推奨します。

修正パッチについては、P.4「1-2. 各バージョンプログラム入手方法について」のページにて公開しています。

- インストールの手順は、Ver9.0 の WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.0 の修正パッチを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。
- WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。
- WebFilter のサービスを予め停止しておいてください。サービスの停止手順は、P.6「2-2.サービスの停止/起動について」をご参照ください。

1) Ver.9.0 の修正パッチを実行します。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

2) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。

3) WebFilter のサービスを停止し修正パッチをインストールするメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
Press ENTER to stop current process of the product and start patch
installation.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

4) 修正パッチがインストールされ、サービスを起動するメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

5) インストールが完了したメッセージが表示されます。インストールプログラムを終了します。<Enter>キーを押します。

2-6. 注意事項の確認/設定

バージョンアップに伴う、既存運用から変更になる点などを確認し、必要があれば設定を変更します。

変更の内容は環境によって異なります。項目の詳細については、下記の弊社 FAQ をご参照ください。

No.2244「バージョンアップ時の注意点などありますか？」

http://support.alsi.co.jp/faq_detail.html?id=2244&category=

- Ver9.0 で追加された機能につきましては、WebFilter Ver9.0 の管理者マニュアルをご参照の上、必要に応じて別途設定を行ってください。

2-7. URL DBダウンロード

バージョンアップ直後は、URL DB はサンプル DB となるため、手動でフル DB をダウンロードします。

1) マスタサーバの管理画面にアクセスします。

アクセス URL はデフォルトで 「http://<マスタサーバの IP アドレス>:2319/」です。

2) [サーバ管理] → [データベース設定] をクリックします。

図 2-1



3) [データベース更新] ボタンをクリックすると、確認のダイアログが表示されます。

図 2-2



● マスタ/スレーブ構成で、マスタサーバのみ URL DB をダウンロードする場合は、マスタサーバの右にある[選択]ボタンをクリックし、[▶ ダウンロード] - [データベース更新] ボタンをクリックし、URL DB のダウンロードを行なってください。

4) [OK]ボタンをクリックし、URL DB をダウンロードします。

5) [データベース設定] 画面にて[再表示] ボタンをクリックし、[データベース情報] が更新されていることを確認します。

以上で、マスタサーバの URL DB ダウンロードは完了です。

● この時点で、最新 URL DB によるフィルタリング動作が可能になります。

3. マスタ/スレーブ構成でのバージョンアップ詳細

ここでは、マスタ/スレーブ構成で Ver8.0 から Ver9.0 へバージョンアップを行う詳細について説明します。

Ver5.0～Ver8.5 SP2 からのバージョンアップでも同様の手順で行なうことができます。

3-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 3-1

	OS	InterSafe WebFilter
移行前	Red Hat Enterprise Linux 6.6 Server(64bit)	Proxy Ver8.0 Build0823 on Linux
移行後	Red Hat Enterprise Linux 6.6 Server(64bit)	Proxy Ver9.0 Build1101 on Linux

作業項目一覧

バージョンアップ時の作業項目は以下の通りです。

- マスタサーバとスレーブサーバが同一バージョンになる前に管理画面を操作した場合、スレーブへの同期は行われません。
  マスタサーバとスレーブサーバが同一バージョンになった後に、手動で同期してください。
  また、可能な限り、バージョンアップ中は設定変更を行わないで下さい。

表 3-2

作業サーバ	作業項目	作業目安時間	作業完了チェック
マスタ	マスタサーバのバージョンアップ作業（「2.マスタサーバのバージョンアップ詳細」をご参照ください。） ● URL DB ダウンロードはマスタサーバのみで実施します。	40 分	
スレーブ	サービス停止（3-2.参照）	5 分	
	Ver8.0 のログディレクトリバックアップ（3-3.参照）	10 分	
	Ver9.0 の上書きインストール(3-4.参照)	10 分	
	修正パッチ適用 → サービス起動 (3-5.参照)	5 分	
マスタ	スレーブサーバの URL DB ダウンロード（3-6.参照）	5 分	
バージョンアップ終了		計 75 分 (1 時間 15 分)	

3-2. スレーブサーバのサービスの停止/起動について

- サービスの停止手順は、P.6「2-2.サービスの停止/起動について」をご参照ください。

3-3. スレーブサーバの既存設定のバックアップ

既存環境のバックアップを行います。バックアップが必要なディレクトリについては以下の通りです。

表 3-3

説明	バックアップするディレクトリ/ファイル
各種ログ	<WebFilter インストールディレクトリ>/logs ディレクトリごと

- 設定ファイルはマスタサーバと同期した際、最新の情報に置き換わるためスレーブサーバ側でバックアップする必要はありません。
- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

3-4. スレーブサーバの上書きインストール

ここでは、スレーブサーバの上書きインストール手順について説明します。

- インストールの手順は、WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.0 のイントールプログラムおよび修正パッチを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。
- WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。

1) Ver.9.0 のインストールファイルを実行します。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

2) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。

3) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。(使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。)

4) 既存バージョンの WebFilter が検出され、上書きインストールを行うメッセージが表示されます。<Enter>キーを押し、インストールを続行します。

```
Updatable product version was detected.

Installation will be executed as update mode.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

5) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently running, please stop them.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

6) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?

When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up

  ->1- Automatic setting
    2- Manual setting

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

6)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below
User:intersafe
Group:intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

6)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、6)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

7) WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
  ->1- Automatic start registers
    2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

8) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。

9) コンバート処理が実行された旨のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
Conversion process was executed.

Check the update.log in the install destination folder.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

10) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver.9.0 Build1101 was installed in the following location.

/usr/local/intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

11) OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。最適化する場合は、「1」を入力し、<Enter>キーを押します。

● Ver7.0 以前よりバージョンアップする場合は、OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.
ip_local_port_range = 1025 65535
tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

12) インストール後、WebFilter のサービスを起動するかどうかを設定します。ここでは、修正パッチを適用するため、「2」を入力し、<Enter>キーを押します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

13) インストールプログラムを終了します。<Enter>キーを押します。

3-5. 修正パッチの適用

● 修正パッチの適用手順は、P.9「2-5. 修正パッチの適用」をご参照ください。

3-6. URL DBダウンロード

バージョンアップ直後は、URL DB はサンプル DB となるため、手動でフル DB をダウンロードします。

ここではスレーブサーバのみ URL DB のダウンロードが完了していないことを想定し、管理画面よりスレーブサーバのみ URL DB ダウンロードを行います。

● 以下はマスタサーバにおける操作です。

1) [サーバ管理] → [データベース設定]をクリック(図 2-1 を参照)します。
［データベース設定］が表示されます。

2) ダウンロードを実行したいスレーブサーバの右にある[選択]ボタンをクリックします。
［データベース設定編集］が表示されます。

3) [▸ ライセンス設定]、[▸ 上位プロキシサーバ設定]に適切な値を入力します。

● [▸ ライセンス設定]では、ライセンスキー、企業・団体名、メールアドレスは必須項目です。

4) 画面右上、[保存]をクリックし、現在の設定を反映します。

5) [▸ ダウンロード] - [データベース更新] ボタンをクリックします。
確認のダイアログが表示されます。

● [▸ ダウンロード] - [データベース更新] ボタンは、マスタサーバの URL DB と対象のスレーブサーバの URL DB の DB バージョンに差異がある時のみ表示されます。マスタサーバの URL DB と差異がない場合は、[データベース設定] に戻り、[データベース更新] ボタンにて URL DB をダウンロードしてください。この場合、全てのサーバに対して URL DB のダウンロードが行われます。

6) [OK] ボタンをクリックします。

7) URL DB ダウンロード後、[データベース設定] に戻り[データベース情報] が更新されていることを確認します。

以上で、スレープサーバのバージョンアップ作業は完了です。

4. OS 変更を伴うバージョンアップ作業例

ここでは既存のマスタ/スレーブサーバのどちらかは稼動させたまま、新規筐体にて Ver8.5 SP2 から Ver9.0 へのバージョンアップ作業を行い、かつ既存筐体と新規筐体の OS が変更になる場合の手順の例を説明します。Ver6.0～Ver8.5 からのバージョンアップでも同様の手順で行なうことができます。

- OS の変更は、Windows → Linux/Solaris などの変更は含まれません。Linux 5.0 → Linux 6.6 などへの変更が対象です。
  Windows → Linux/Solaris へ OS 変更をする場合は P.25「設定の保存/復旧を使ったバージョンアップ例」をご参照ください。
- 製品の移行(ICAP 版 → Proxy 版や Proxy 版 → ICAP 版)についてはサポート対象外となっております。

4-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 4-1

	OS	InterSafe WebFilter
移行前	Red Hat Enterprise Linux 5.0 32bit	Proxy Ver8.5 SP2 Build1003 on Linux
移行後	Red Hat Enterprise Linux 6.6 64bit	Proxy Ver9.0 Build1101 on Linux

前提条件

記載されている手順は、以下を前提としております。

- Ver8.5 SP2 の情報を保持し、Ver9.0 へバージョンアップを行う。
- 既存サーバ筐体は Ver8.5 SP2 で運用されている。
- マスタ/スレーブサーバの新規筐体に Red Hat Enterprise Linux 6.6 OS がインストールされている。
- Ver9.0 のインストールプログラムおよび修正パッチがマスタ/スレーブサーバの新規筐体上に保存されている。

- Ver9.0 のプログラム入手方法については、P.4「1-2. 各バージョンプログラム入手方法について」をご参照ください。

作業項目一覧

表 4-2

作業筐体	サーバ種別	WebFilter Ver.	作業項目	作業目安時間	作業完了チェック
既存 (RH 5)	マスタ	8.5 SP2	Ver8.5 SP2 の conf ディレクトリとログディレクトリをバックアップ	10 分	
新規(RH 6)	マスタ		既存筐体の Ver8.5 SP2 conf ディレクトリをコピー	5 分	
		8.5 SP2 ↓ 9.0	Ver9.0 へバージョンアップ	15 分	
			修正パッチ適用 → サービス起動	5 分	
			注意事項の確認/設定	15 分	
		9.0	URL DB ダウンロード	5 分	
既存 (RH 5)	スレーブ	8.5 SP2	Ver8.5 SP2 のログディレクトリをバックアップ	10 分	
新規(RH 6)	スレーブ	9.0	Ver9.0 を新規インストール	15 分	
			修正パッチ適用 → サービス起動	5 分	
新規(RH 6)	マスタ	9.0	スレーブサーバの削除/登録	5 分	
新規(RH 6)	スレーブ	9.0	サービス再起動	5 分	
新規(RH 6)	マスタ	9.0	URL DB ダウンロード	5 分	
バージョンアップ終了				計 100 分 (1 時間 40 分)	

4-2.バージョンアップ手順

マスタサーバの構築

マスタサーバを新規筐体で Ver9.0 へバージョンアップします。

1) P.6「2-3. 既存設定のバックアップ」を参照して、既存筐体の WebFilter の設定情報をバックアップします。

2) 1)でバックアップしておいた設定情報を、新規筐体上の Ver9.0 のインストール場所と同じ場所にコピーします。

● WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

3) Ver.9.0 のインストールファイルを実行します。

● WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

4) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。

5) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。

6) インストールディレクトリを指定し、**<**Enter**>**キーを押します。

```
Only normal-width Alphanumeric character and '_' or '-' are allowed to use as
install folder name.
Whole folder path's length is restricted within 128 characters.

Select install folder.

Where Would You Like to Install?

  Default Install Folder: /usr/local/intersafe

ENTER AN ABSOLUTE PATH, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

● インストールフォルダは、2)で設定ディレクトリをコピーした場所と同じ場所を指定してください。同じ場所を指定しない場合、新規インストールとなります。

7) インストールディレクトリの確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
It installs to this folder.

/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

8) コピーしておいた WebFilter の設定ディレクトリが検出され、上書きインストールを行うメッセージが表示されます。<Enter>キーを押し、インストールを続行します。

```
Updatable product version was detected.

Installation will be executed as update mode.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

9) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently running,please stop them.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

10) WebFilter をインストールするサーバの IP アドレスを選択して<Enter>キーを押します。

```
Please select the IP address which it utilizes as Master
  ->1- 192.168.1.1
ENTER THE NUMBER OF THE DESIRED CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE
   DEFAULT:
```

11) IP アドレスの確認のメッセージが表示されるので、「Y」を入力して<Enter>キーを押します。

12) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?
When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up
  ->1- Automatic setting
    2- Manual setting
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

12)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below
User:intersafe
Group:intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

12)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、12)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

13) WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
  ->1- Automatic start registers
    2- Automatic start does not register
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

14) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。

15) コンバート処理が実行された旨のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
Conversion process was executed.
Check the update.log in the install destination folder.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

16) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver.9.0 Build1101 was installed in the following location.
/usr/local/intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

17) OS パラメータの最適化を確認するメッセージが表示されます。最適化する場合は「1」選択し、<Enter>キーを押します。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.
ip_local_port_range = 1025 65535
tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

18) WebFilter のサービスの起動を促すメッセージが表示されます。<Enter>キーを押しサービスを起動し、インストーラを終了します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

19) P.9「2-5. 修正パッチの適用」を参照して、修正パッチを適用します。

20) P.9「2-6. 注意事項の確認/設定」を参照して、既存運用から変更になる点などを確認し、必要があれば設定を変更します。

21) P.10「2-7. URL DB ダウンロード」を参照して、マスタサーバのみ手動でフル URL DB をダウンロードします。

● 新規環境と既存環境を 1 週間以上並行稼動する場合は、ライセンスキーを重複利用しないよう、どちらかの環境用に試用版のライセンスキーをご準備ください。試用版ライセンスキーは P.4 図 1-1 にある「試用版お申し込み」ボタンより取得できます。

スレーブサーバの構築

スレーブサーバを新規筐体に新規インストールし、マスタサーバより同期を行います。

1) P.12「3-3. スレーブサーバの既存設定のバックアップ」を参照して、既存筐体のスレーブサーバのログディレクトリのバックアップを行います。

2) スレーブサーバの新規筐体で Ver.9.0 のインストールファイルを実行します。

● WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

3) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。

4) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。

5) インストールディレクトリを指定し、<Enter>キーを押します。

```
Only normal-width Alphanumeric character and '_' or '-' are allowed to use as
install folder name.
Whole folder path's length is restricted within 128 characters.

Select install folder.

Where Would You Like to Install?

  Default Install Folder: /usr/local/intersafe

ENTER AN ABSOLUTE PATH, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

6) インストールディレクトリの確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
It installs to this folder.

/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

7) インストールする製品を選択します。ここでは Proxy 版をインストールしますので、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
Please choose the Install Set to be installed by this installer.

  ->1- Proxy
    2- ICAP

ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
   :
```

8) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently running,please stop them.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

9) サーバのインストールタイプを選択し、<Enter>キーを押します。

● ここではスレーブサーバをインストールしますので、「2」と入力します。

```
Please select server type

  ->1- Master Server
    2- Slave Server

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

10) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?

When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up

  ->1- Automatic setting
    2- Manual setting

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

10)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below
User:intersafe
Group:intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

10)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、10)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

11) WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
  ->1- Automatic start registers
    2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

12) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。

13) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver.9.0 Build1101 was installed in the following location.

/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

14) OS パラメータの最適化を確認するメッセージが表示されます。最適化する場合は「1」選択し、<Enter>キーを押します。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.
ip_local_port_range = 1025 65535
tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

15) WebFilter のサービスの起動を促すメッセージが表示されます。<Enter>キーを押しサービスを起動し、インストーラを終了します。

● バージョンアップ後、続けて修正パッチを適用する場合は、「2」を入力し、<Enter>キーを押します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

16) P.14「3-5. 修正パッチの適用」を参照して、修正パッチを適用します。

17) マスタサーバの管理画面にアクセスします。

アクセス URL はデフォルトで 「http://<マスタサーバの IP アドレス>:2319/」です。

18) [サーバ管理] → [サーバ設定] をクリックします。

図 4-1



19) 既存のスレーブサーバの右にある[選択]ボタンをクリックします。

図 4-2



● 旧スレーブサーバと疎通が取れる環境で旧スレーブサーバを削除すると、旧スレーブサーバのフィルタリングサービスと拡張 Web サービスが停止します。新マスタサーバと旧スレーブサーバとは疎通が取れない環境であることをご確認後、[削除]をクリックしてください。

20) 画面右上の[削除]ボタンをクリックします。

図 4-3



21) 確認のダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

22) 以下のメッセージが表示される場合がありますが、マスタサーバとスレーブサーバのバージョンが違うために発生しているので特に問題ありません。そのまま、[OK] ボタンをクリックします。

図 4-4



23) 「削除が完了しました。」のメッセージが表示され、管理画面よりスレーブサーバが削除されます。続いて新規スレーブサーバを登録するため、[+サーバを追加] をクリックします。

図 4-5



24) スレーブサーバの情報を入力します。

25) 画面右上の [保存] ボタンをクリックします。

26) 確認のダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

27) 「登録が完了しました」と表示されます。

28) 登録したスレーブサーバの全てのサービスを再起動してください。

```
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain stop
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain start
```

- WebFilter の起動と停止は root ユーザで実行してください。
- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

29) P.14「3-6. URL DB ダウンロード」を参照して、スレーブサーバのみ手動でフル URL DB をダウンロードします。

- 新規環境と既存環境を 1 週間以上並行稼動する場合は、ライセンスキーを重複利用しないよう、どちらかの環境用に試用版のライセンスキーをご準備ください。試用版ライセンスキーは P.4 図 1-1 にある「試用版お申し込み」ボタンより取得できます。

以上で、バージョンアップ作業は完了です。

5.製品変更を伴うバージョンアップについて

Ver7.0 以前の Squid 版をご利用のお客様が Ver9.0 のインストールプログラムを実行した場合、自動的に Ver9.0 ICAP 版へのバージョンアップとなります。バージョンアップ時、WebFilter の設定ファイルはそのまま引き継がれますが、別途 ICAP クライアントの設定が必要です。ここでは、Squid を ICAP クライアントとした場合の設定手順について説明します。

- Squid のバージョンが 3.1 より古い場合、Squid を 3.1 以降にバージョンアップする必要があります。

Squid のインストール

Squid を ICAP クライアントとして利用するには、Squid インストール時の configure のオプションで"--enable-icap-client"を追加してください。

- Squid インストール時のオプションについては、WebFilter の管理者マニュアルの「1-5. ICAP クライアントの設定」や Web、文献等を参照してください。

■ Squid インストール時の実行例

```
# ./configure --enable-icap-client
# make
# make install
```

Squid の設定

Squid の設定ファイル(squid.conf)に ICAP 連携の設定を記述します。

■ squid.conf の記述例

```
#Squid の ICAP 設定
    icap_enable on
    icap_service service_1 reqmod_precache 0 icap://<WebFilter サーバ IP>:1344
    adaptation_service_set service_set_1 service_1
    adaptation_access service_set_1 allow all
    icap_send_client_ip on
#リダイレクタプログラムの起動記述をコメントアウト
    #redirect_program /usr/local/intersafe/bin/amsrdr start
    #redirect_children 5
```

- Squid の設定については Web や文献等をご参照ください。

6. 設定の保存/復旧を使ったバージョンアップ例

Ver8.5 以降では、異なる OS 間での設定の保存/復旧をサポートしています。

ここでは、保存/復旧機能を使って、異なる OS 間でバージョンアップ手順の例を説明します。

- 異なる OS とは Windows → Linux / Solaris、Linux ⇔ Solaris への変更を示しています。また、32bit → 64bit と変更になる場合もこちらの手順でバージョンアップが可能です。
- 設定ファイルの保存/復旧を行う場合、新旧サーバは同じバージョン、ビルドある必要があります。

6-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 6-1

	OS	InterSafe WebFilter
移行前	日本語版 Microsoft Windows Server 2012 R2 64bit	Proxy Ver8.5 SP1 Build0876 on Windows
移行後	Redhat Linux 6.6 64bit	Proxy Ver9.0 Build1101 on Linux

前提条件

記載されている手順は、以下を前提としております。

- Ver8.5 SP1 の情報を保持し、Ver9.0 へバージョンアップを行う。
- 既存サーバ筐体は Ver8.5 SP1 で運用されている。
- 旧環境の OS が Ver9.0 のサポート対象 OS である。もしくは旧環境の WebFilter を Ver9.0 までバージョンアップできる環境が用意されている。
- 新規筐体に Redhat Linux 6.6 OS がインストールされている。
- Ver9.0 のインストールプログラムが旧/新規筐体のサーバ上に保存されている。
- Ver9.0 の修正パッチが新規筐体のサーバ上に保存されている。

- Ver9.0 のプログラム入手方法については、P.4「1-2. 各バージョンプログラム入手方法について」をご参照ください。

作業項目一覧

表 6-2

作業筐体	WebFilter Ver.	作業項目	作業目安時間	作業完了チェック
既存 (Win2012)	8.5	サービスの停止	約 5 分	
		Ver8.5 SP1 の conf フォルダとログフォルダをバックアップ	約 10 分	
	8.5 ↓ 9.0	Ver9.0 へバージョンアップ → サービス起動	約 10 分	
	9.0	設定ファイルの保存	約 5 分	
		新規サーバへ保存した設定ファイルのコピー	約 5 分	
新規(RH6)	9.0	Ver9.0 を新規インストール	約 10 分	
		設定ファイルの復旧 → サービス再起動	約 10 分	
		注意事項の確認/設定	約 15 分	
		URL DB ダウンロード	約 5 分	
計 75 分 (1 時間 15 分)				

6-2. バージョンアップ手順

既存サーバのバージョンアップ

既存サーバを Ver9.0 へバージョンアップします。

- インストールの手順は、WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.0 のイントールプログラムを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。

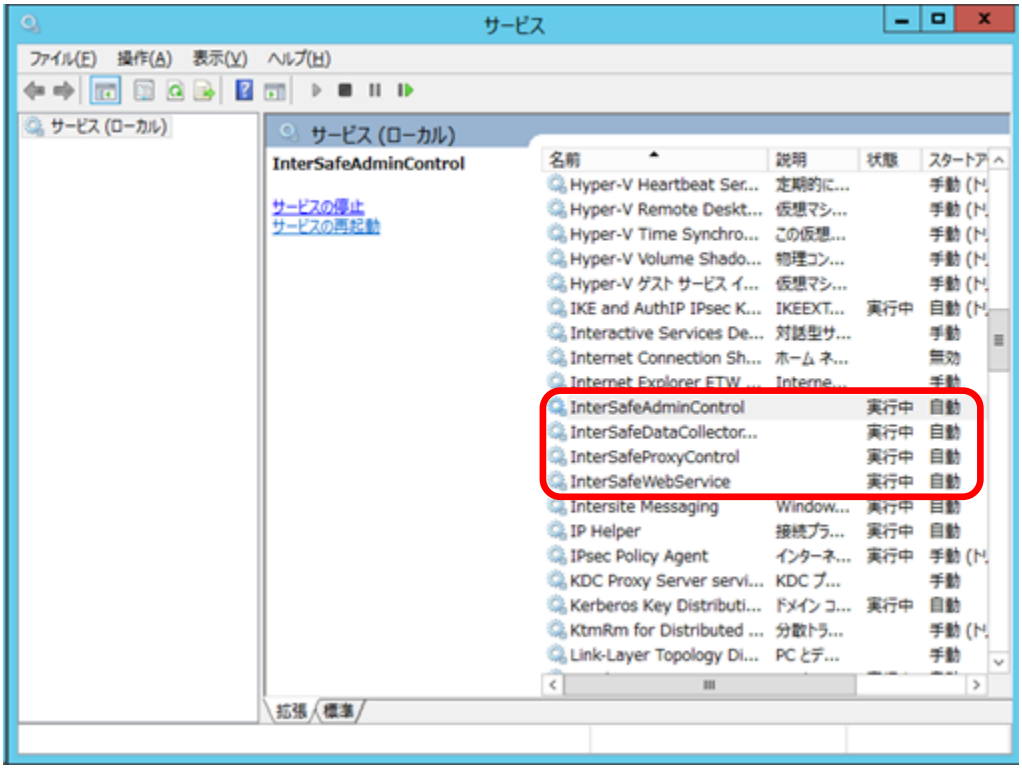
1) インストールを実行するコンピュータに管理者(Administrator)権限を持つユーザーアカウントでログインします。

2) サービスを停止します。

- サービス停止手順は、ご利用バージョンの WebFilter の管理者マニュアルもご参照ください。

3) [スタート] → [コントロールパネル]を開き、[管理ツール]の[サービス]を開きます。

図 6-1



4) 停止したいサービスを選択して、[操作]メニューかサービスを右クリックし、[停止]します。

WebFilter で使用しているサービスは以下の 4 つです。

- InterSafeAdminControl ：管理サービス
- InterSafeProxyControl ：フィルタリングサービス
- InterSafeWebService ：拡張 Web サービス
- InterSafeDataCollectorControl ：集計サービス（Ver9.0 以降）※マスタのみ

5) 既存環境のデータのバックアップを行います。バックアップが必要なフォルダについては以下の通りです。

表 6-3

説明	バックアップするフォルダ/ファイル
設定ファイル	<WebFilter インストールフォルダ>¥conf フォルダごと
各種ログ	<WebFilter インストールフォルダ>¥logs フォルダごと
管理画面を HTTPS プロトコルで使用している場合	<WebFilter インストールフォルダ>¥tomcat¥.keystore ファイル

- WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「C:¥InterSafe」となります。

6) Ver9.0 のインストールプログラム「setup.exe」を実行します。セットアッププログラムが起動しますので「次へ」を選択します。

図 6-2



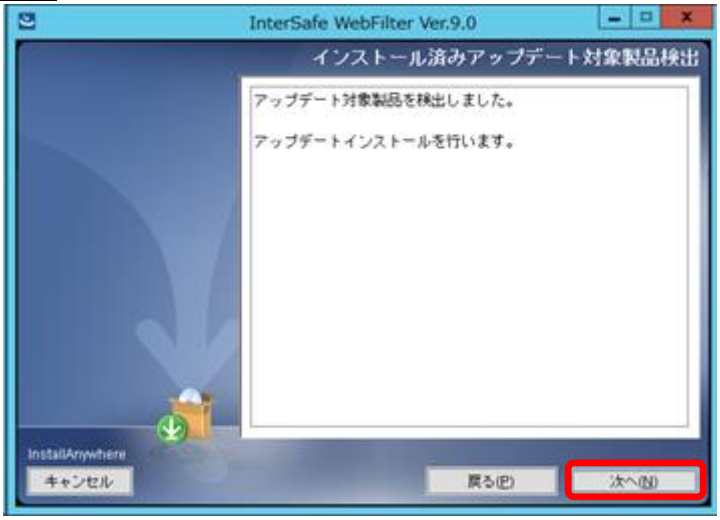
7) 使用許諾画面が表示されますので、同意していただき、「次へ」を選択します。

図 6-3



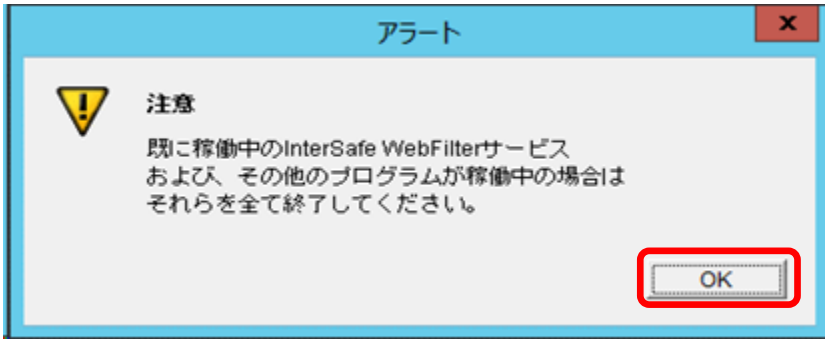
8) バージョンアップの場合、自動でアップデート検出を行います。「次へ」を選択します。

図 6-4



9)　サービス停止の警告画面が表示されますので、サービスが稼働中の場合は停止します。停止したら「OK」を選択します。

図 6-5



10) インストール確認画面が表示されます。内容に問題がない場合、「インストール」を選択します。

図 6-6



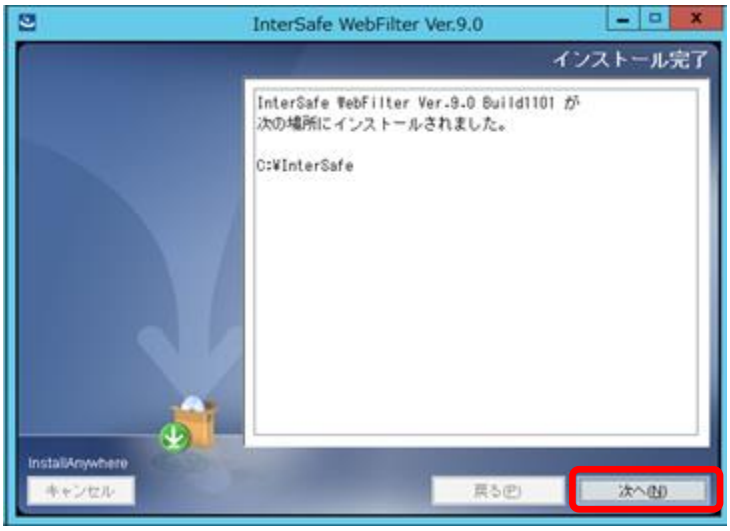
11) コンバート処理の完了画面が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 6-7



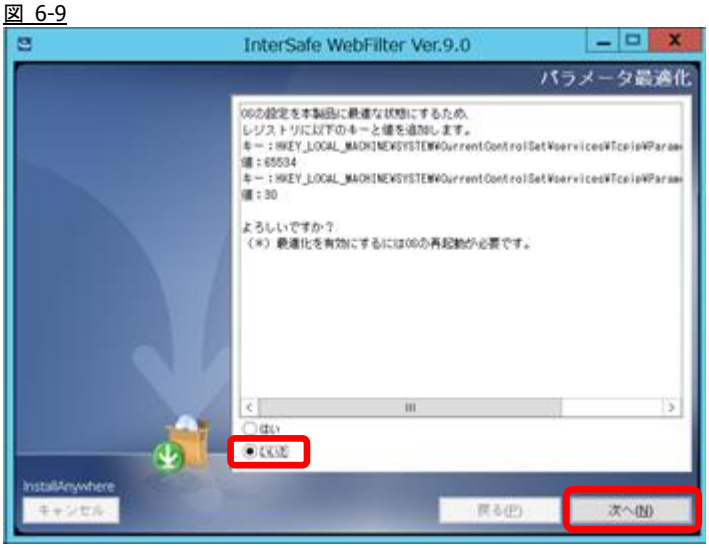
12) インストールした内容が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 6-8



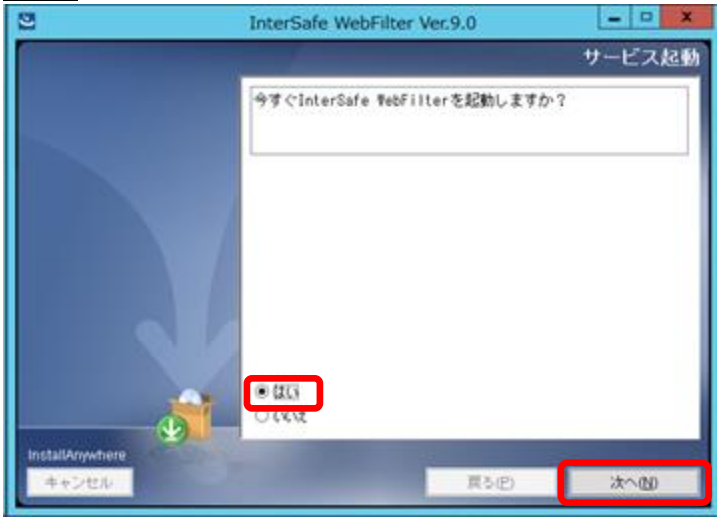
13) OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。今回は最適化する必要がないため、[いいえ]を選択して、「次へ」を選択します。

図 6-9



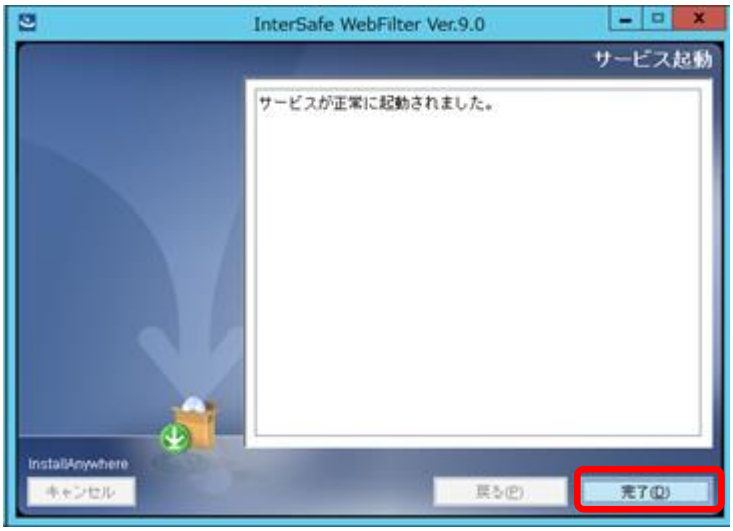
14) インストールが完了するとサービスの起動を要求されますので、[はい]を選択し、「次へ」を選択しサービスを起動します。

図 6-10



15) サービスが起動しましたら、Windows 版の Ver8.5 から Ver9.0 へのバージョンアップは完了です。

図 6-11



設定ファイルの保存

1) 任意の PC でブラウザを起動し、管理画面にアクセスします。

アクセス URL はデフォルトで 「http://<マスタサーバの IP アドレス>:2319/」です。

2) [設定情報管理] → [保存/復旧/同期] をクリックします。

図 6-12



3) [▸ 保存/復旧]の「現在の状態を保存する」を選択します。任意のファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックします。

図 6-13



4) 移行先の WebFilter の管理画面を操作可能な PC の任意の場所に、保存したバックアップファイルをコピーします。

● 保存したバックアップファイルは、管理画面上でファイル名をクリックするとダウンロードできます。
または、WebFilter サーバの以下の場所に保存されていますので、こちらからも取得が可能です。
<WebFilter インストールフォルダ>¥ backup¥save¥ファイル名.zip.ams
WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「C:¥InterSafe」となります。

新規サーバの構築

新規サーバに Ver9.0 を新規インストールします。

- インストールの手順は、WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.0 のイントールプログラムおよび修正パッチを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。
- WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。

1) Ver. 9.0 のインストールファイルを実行します。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

2) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。

3) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。

4) インストールディレクトリを指定し、**<**Enter**>**キーを押します。

```
Only normal-width Alphanumeric character and '_' or '-' are allowed to use as
install folder name.
Whole folder path's length is restricted within 128 characters.

Select install folder.

Where Would You Like to Install?

  Default Install Folder: /usr/local/intersafe

ENTER AN ABSOLUTE PATH, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

5) インストールディレクトリの確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
It installs to this folder.

/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

6) インストールする製品を選択します。ここでは Proxy 版をインストールしますので、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
Please choose the Install Set to be installed by this installer.

  ->1- Proxy
    2- ICAP

ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
   :
```

7) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently running,please stop them.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

8) サーバのインストールタイプを選択し、<Enter>キーを押します。

● ここではマスタサーバをインストールしますので、「1」と入力します。

```
Please select server type

  ->1- Master Server
    2- Slave Server

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

9) WebFilter をインストールするサーバの IP アドレスを選択して<Enter>キーを押します。

```
Please select the IP address which it utilizes as Master
  ->1- 192.168.1.1

ENTER THE NUMBER OF THE DESIRED CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE
   DEFAULT:
```

10) IP アドレスの確認のメッセージが表示されるので、「Y」を入力して<Enter>キーを押します。

11) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?

When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up

  ->1- Automatic setting
    2- Manual setting

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

11)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below
User:intersafe
Group:intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

11)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、11)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

12) WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
  ->1- Automatic start registers
    2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

13) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。

14) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver. 9.0 Build1101 was installed in the following location.
/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

15) OS パラメータの最適化を確認するメッセージが表示されます。最適化する場合は「1」選択し、<Enter>キーを押します。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.
ip_local_port_range = 1025 65535
tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

16) WebFilter のサービスの起動を促すメッセージが表示されます。サービスを起動する場合は「1」を選択し、<Enter>キーを押しサービスを起動します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

  ->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

17) インストールプログラムを終了します。<Enter>キーを押します。

18) 16)で「2」を選択した場合は、手動で WebFilter を起動してください。

```
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain start
```

- WebFilter の起動と停止は root ユーザで実行してください。
- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

設定ファイルの復旧

1) 任意の PC でブラウザを起動し、新規サーバの管理画面にアクセスします。
アクセス URL はデフォルトで 「http://<マスタサーバの IP アドレス>:2319/」です。

2) [設定情報管理] → [保存/復旧/同期] をクリックします。
図 6-14



3) [▶ 保存/復旧]の「アップロードして保存する」を選択します。[参照]ボタンをクリックし、P31.の 4)で保存したファイルを選択し、[保存] ボタンをクリックします。
図 6-15



4) 保存確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックします。

5) 一覧にアップロードしたファイルが表示されますので、そのファイルを選択し、[復旧] ボタンをクリックします。

図 6-16



6) 復旧確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックします。

- 3)で保存した設定ファイルにスレーブサーバが登録されている場合、移行後のマスタサーバとスレーブサーバで疎通が取れる環境で[復旧]を実施すると、スレーブサーバに紐付いているマスタサーバの IP が変更されます。新マスタサーバとスレーブサーバで疎通が取れない環境であることをご確認後、[復旧]を実施してください。

7) 復旧処理が完了したメッセージが表示されますので、すべてのサービスを再起動してください。

```
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain stop
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain start
```

- WebFilter の起動と停止は root ユーザで実行してください。
- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

注意事項の確認/設定

P.9「2-5. 修正パッチの適用」を参照して、必要があれば設定を変更します。

URL DB ダウンロード

P.10「2-7. URL DB ダウンロード」を参照して、手動でフル URL DB をダウンロードします

以上で、バージョンアップ作業は完了です。

7. 障害時のリカバリについて

マスタサーバのバージョンアップ時に何らかの理由で障害が発生し、旧バージョンへダウングレードする場合は、以下の手順にて実施してください。

■ 旧バージョンのインストーラがある場合

1) インストールされたままの WebFilter があればアンインストールを行います。
2) バックアップしておいた旧バージョンの設定フォルダ(conf フォルダ)を、以前と同じ場所にコピーします。

● WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「/usr/local/intersafe」となります。

3) 旧サーバのインストーラを実行することで、設定ファイルをコンバートしながら、旧サーバのインストールを行います。

■ 旧バージョンが Hotfix など、パッチの場合

1) インストールされたままの WebFilter があればアンインストールを行います。
2) バックアップしておいた旧バージョンの設定フォルダ(conf フォルダ)と同じバージョンになるまで、インストールを行います。
   (例) Ver8.5 SP2 Build1003 をインストール → パッチ Ver8.5 SP2 Build1012 を適用 など)
3) 設定フォルダを上書きします。
4) 上書き後は WebFilter のすべてのサービスを再起動してください。

スレーブサーバのリカバリについて

スレーブサーバは、マスタサーバリカバリ後、マスタサーバと同じバージョンに再インストール後、管理画面よりスレーブサーバの再登録を行なってください。

8. Ver9.0 での変更内容について

Ver9.0 へのバージョンアップにより、運用に影響が発生する可能性のある項目について記述します。

8-1. 注意事項

バージョンアップ時の注意事項について、以下の弊社 FAQ に詳細を記載した資料が掲載されていますので、ご参照の上別途設定を行なってください。

No.2244「バージョンアップ時の注意点などありますか？」

http://support.alsi.co.jp/faq_detail.html?id=2244&category=

- Ver9.0 に追加された機能につきましては、WebFilter の管理者マニュアルをご参照の上、必要に応じて別途設定を行ってください。

8-2. バージョンアップによる機能追加

Ver8.5 SP2 から Ver9.0 へのバージョンアップにより追加された機能の概要を一覧にまとめました。

表 8-1

項目	内容
新機能	
高度分類クラウド	既存 DB で未分類となった URL を ALSI が運用するクラウド上の DB で分類を行います。クラウドにより付与されたカテゴリはフィルタリングの対象となります。
サイバー攻撃対策製品連携	マルウェアや有害なコードを含んでいる可能性のあるファイルをサニタイズ（無害化）し、安全なファイル受け渡しを実現します。
パフォーマンスモニタ	メモリ、CPU の使用状況や同時接続数など、管理者向けの統計情報を管理画面にて提供します。
GeoScope	ロケーション(アクセス先)によるアクセスレポートを管理画面にて提供します。 Web サーバの所在地により、ウィルス発信の多い国や、サーバ管理が不安な国へのアクセスを規制します。
規制画面設定	
書き込み規制制御の改善	リクエスト種別（閲覧、書き込み）毎に規制メッセージを設定可能。 ・ログ取得する最小・最大サイズを設定可能。 ・書き込み許容サイズの判定方法を柔軟に設定可能。
ユーザ設定カテゴリ	
監視・規制するカテゴリ数を拡大	ユーザ設定カテゴリの最大登録数を 10 から 99 に拡張しました。
ログ管理	
通信シーケンスログの追加	詳細なアクセス状況を記録することができます。 クライアント,ISWF,Web サーバ間の通信を詳細に記録し、障害の解析、不正通信の解析を支援します。

8-3. 設定ファイルの違い

Ver8.5 SP2~Ver9.0 の設定ファイルの初期値の違いについて一覧にまとめました。(☆･･･Proxy 版のみ ★･･･ICAP 版のみ)

表 8-2

項目名	Ver9.0	Ver8.5 SP2	内容
[LOG_CFG]			
TRACE_POST_REQ_MINSIZE	1	なし	Post ログを出力する場合の HTTP ボディサイズの下限設定。 この値を下回る場合、POST ログは出力されない。 単位は Byte
LOG_SEQUENCE	FALSE	なし	通信シーケンスログの出力有無を設定する。
[MANAGEMENT_CFG]			
MAX_USER_CTG	10	なし	ユーザ設定サブカテゴリの表示の上限値
COUNTRY_ACCESS_ALERT_CTG	SECURITY	なし	国・地域のアクセス表示のうち警告表示に分類するカテゴリ ID の一覧。 ","区切りで小カテゴリの ID(XXYY)か SECURITY を列挙。 ALL:全カテゴリ ID の列挙と等価 SECURITY:マルウェア/ウイルス対策カテゴリ ID の列挙と等価
[ACCESS_CTRL]			
ALLOW_POST_SIZE_ORDER	DEFAULT	なし	複数のカテゴリに設定された書き込み許容サイズから判定する場合の動作を設定する。 DEFAULT:カテゴリ順で判定する。 GREATER:最も大きな許容サイズの値で判定する。 ONLY_USER_CTG_GREATER:ユーザ設定カテゴリが付与された場合はユーザ設定カテゴリのうち最も大きな許容サイズの値で判定する。 ユーザ設定カテゴリが付与されない場合はカテゴリ順で判定する。 ※「閲覧のみ許可」カテゴリについては本設定の動作対象とならず、「閲覧のみ許可」カテゴリのサイズ値で判定される。
COUNTRY_BLOCKING_ON	FALSE	なし	国・地域のアクセス規制の有無を設定する。 TRUE:国・地域のアクセス規制を実施する。 FALSE:国・地域のアクセス規制を実施しない。
BLOCK_COUNTRY	–	なし	アクセス規制を行う国・地域を設定する。 半角カンマを区切り文字として複数設定可能。
IWCC_ON	FALSE	なし	高度分類クラウドの使用を設定する。 TRUE:高度分類クラウドを使用する。 FALSE:高度分類クラウドを使用しない。
IWCC_URL_REQ	ALL	なし	クラウドへのリクエストに含める URL の形態を設定する。 ALL:入力された URL DEL_PARAM:パラメータ部を削除した URL HOST:ホスト部までの URL
IWCC_MODE	FILTERING	なし	クラウドへのリクエスト解決後の動作モードを設定します。 LOG:ログへの付与のみの監査モード FILTERING:付与されたカテゴリでフィルタリングを実施、付与が失敗した場合などは未分類のまま動作 NOFAILSAFE:付与されたカテゴリでフィルタリングを実施、付与が失敗した場合は規制として動作
IWCC_DENY_HOST	–	なし	クラウドへのリクエスト除外とするホストまたは IP アドレスを設定する。 半角カンマを区切り文字として複数設定可能。
IWCC_DENY_IP	ALL	なし	クラウドへの IP アドレス URL のリクエスト除外方法を設定する。 NONE:除外無し ALL:すべての IP へのアクセスを除外 PRIVATE:プライベート IP へのアクセスだけを除外
IWCC_RESCATE_LOG	TRUE	なし	クラウドで付与されたカテゴリのログ時のプレフィックス付与要否を設定する。 TRUE:プレフィックスを付与する。 FALSE:プレフィックスを付与しない。

項目名	Ver9.0	Ver8.5 SP2	内容
[ACCESS_CTRL]			
IWCC_REQ_LOG	FALSE	なし	クラウドへリクエストした URL のログ出力有無を設定する。 TRUE：リクエスト URL をログへ出力する。 FALSE：リクエスト URL をログへ出力しない。
[SERVICE_OBSERVE]			
LOG_ANALYZE	FALSE	なし	Geo スコープ機能のログ集計処理を行うかを設定する TRUE:ログ集計を実施する。 FALSE:ログ集計を実施しない。
LOG_ANALYZE_DB_LIST	–	なし	集計データベースサービスの IP アドレスとポートの一覧。 半角カンマを区切り文字として複数設定可能。 空の場合は IP アドレスを MASTER_ADMIN_HOST とし、ポートから取得
LOG_ANALYZE_AGENT_PORT	41210	なし	アクセスログエージェントの待ち受けポート
LOG_ANALYZE_DB_PORT	41209	なし	集計データベースサービスの待ち受けポート
LOG_ANALYZE_DB_TARGET_AGENT	–	なし	集計データベースサービスの管理するアクセスログエージェントの IP アドレスとポートの一覧。 半角カンマを区切り文字として複数設定可能。 空の場合は AMS のスレーブ一覧から取得
[CONTROL_CFG]			
ICAP_RESPMOD_REENCODE(☆)	FALSE	なし	RESPMOD 連携時の解凍されたレスポンスボディの再圧縮要否を設定する。 TRUE：再圧縮する。 FALSE：再圧縮しない。
ICAP_RESPMOD_KEEPALIVE_TIMEOUT(☆)	55000	なし	RESPMOD 連携で ICAP サーバとの間の Keep-Alive のタイムアウト時間(ミリ秒) 前回の利用からこの時間を経過しているコネクションを再利用する際に再接続を実施する。 -1 の場合は本機能は動作しない ※Build1002 以降追加

9. バージョンアップ時の FAQ

Q1. Ver9.0 と Ver8.5 SP2 や Ver8.0 以前のバージョンが混在した場合、WebFilter のサービスに影響はでますか？
(WebFilter は全てマスタサーバ)

混在における影響はマスタ・スレーブの関係・設定時に発生するため、すべてマスタ環境であれば特に影響はありません。

Q2.バージョンアップ時サーバがダウンした場合、WebFilter の再インストールは必要ですか？

新規インストール・バージョンアップウィザードが正常に終了しているのであれば、一般的には問題ありませんので再インストールの必要性はございません。ただしサービス起動時にエラーなどにより起動が出来なかった場合、および原因の特定が出来なかった場合、切り分けとして再度インストールをお願いする可能性がございます。（万が一サービスを停止する期間が長くなってしまう場合、バックアップファイルを用い旧バージョンに差し戻すことをお勧めします。）

Q3.マスタサーバの冗長化はできますか？

できません。

Q4. マスタサーバ故障時の復旧方法は？バージョンアップが失敗した時のリカバリ方法は？

バージョンアップ前/後、どちらであっても設定ファイルのバックアップがあれば、復旧/リカバリは可能です。復旧/リカバリの手順は以下になります。スレーブサーバはマスタサーバ復旧/リカバリ後、マスタサーバと同じバージョンにしてから再度管理画面よりスレーブサーバの登録を行なってください。具体的な手順は P.36「7. 障害時のリカバリについて」をご参照ください。

Q5.マスタサーバの故障時、スレーブサーバのみで運用できますか？

フィルタリングサービスに関しては可能です。ただしマスタサーバが存在しない場合は管理画面を利用した設定変更やユーザ管理などの操作が出来なくなります。

Q6.Ver8.5 を Solaris OS で利用していますが Ver9.0 でも利用できますか？

最新版の InterSafe WebFilter は SolarisOS に対応していません。LinuxOS への変更をお願いいたします。

※Solaris の対応状況は以下の通りです。(◯：対応 ×：未対応)

Ver8.5 → ◯、Ver8.5 SP1 → ◯、Ver8.5 SP2 → ×、Ver9.0 → ×

Q7. OS をリプレイスしてバージョンアップしたいのですが、本手順書の 4 と 6 のどちらの手順がいいのでしょうか？

変更する OS の種類によって、どちらかの手順でバージョンアップを行ってください。

- LinuxOS → LinuxOS、SolarisOS → SolarisOS の場合 → P.15「4. OS 変更を伴うバージョンアップ作業例」と P.25「6. 設定の保存/復旧を使ったバージョンアップ例」のどちらの方法でもバージョンアップが可能です。
- WindowsOS → Linux/SolarisOS の場合 → P.25「6. 設定の保存/復旧を使ったバージョンアップ例」の方法でバージョンアップが可能です。

Q8.Ver7.0 Squid 版を利用していますが Ver9.0 でも利用できますか？

Ver7.0 の Squid 版をバージョンアップすると、自動的に Ver9.0 ICAP 版に変更されます。Squid 版をご利用になりたい場合、そのまま Ver7.0 をご利用ください。
なお、Ver7.0 はすでにサポートが終了しています。お早めにバージョンアップを実施してください。

Q9. バージョンアップに失敗するとどうなりますか？

バージョンアップ中何らかの理由でバージョンアップに失敗すると、クリアインストールされ設定は引き継がれません。その場合、/usr/local/intersafe/backup/save フォルダ以下にバージョンアップ前の conf フォルダがバックアップされていますので、一旦 Ver9.0 をアンインストール後、再度バージョンアップをお試しください。

10. InterSafe WebFilter サポート窓口について

WebFilter について不明点等ございましたら、下記のサポート窓口までお問い合わせください。

メール　：support@alsi.co.jp

電話　　：03-5499-1331

受付時間：平日 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00

InterSafeWebFilter Ver9.0 バージョンアップ ユーザーズガイド

2018 年 4 月 初版

作成/発行/企画　　アルプスシステムインテグレーション株式会社

〒145-0067　東京都大田区雪谷大塚町 1-7

※記載されている会社名および商品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

・本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

・本書の内容の一部、または全部を無断で転載、あるいは複写することを禁じます。

・本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一記載に誤りや不完全な点がありましたらご容赦ください。